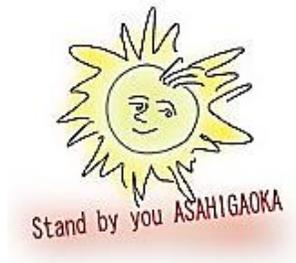


# 地域での看取りを知る

～ 多職種の視点からみた看取りの実際 ～

【特別養護老人ホームでの看取り】



R1.11.30 旭ヶ岡の家 南部 雄一

# 特別養護老人ホーム旭ヶ岡の家



# 特別養護老人ホーム旭ヶ岡の家

創立 昭和52年（開設当初から看取りケアを実施）

入居者数 83名 + ショートステイ 7名

平均介護度 要介護4 （R1年10月現在）

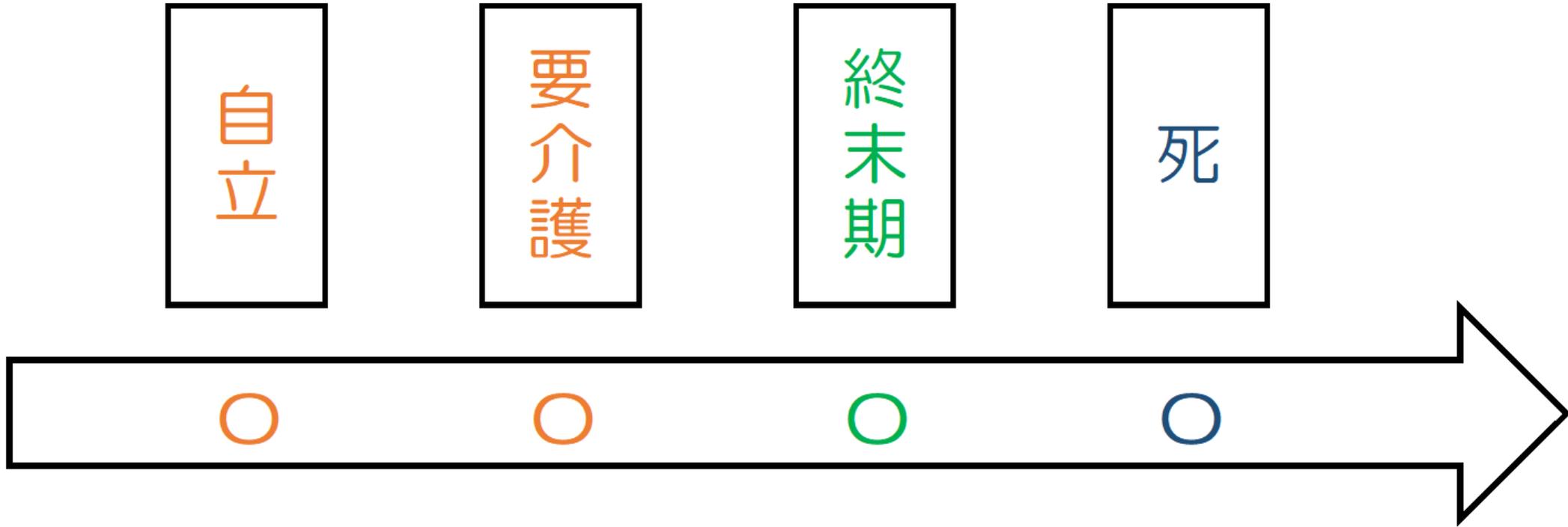
平均在園期間 2年8ヶ月 （R1年10月現在）

看取り者数 12名 （H31年度）

9名 （R1年10月現在）

物故者数 609名 （R1年10月現在）

# 人生の最終段階



楽しく、安心して、最後の準備も

ごく普通の生活の延長線上

誰にも平等に訪れる

**老年期は人生最高のバカンス！**

# 看取りに対する考え方

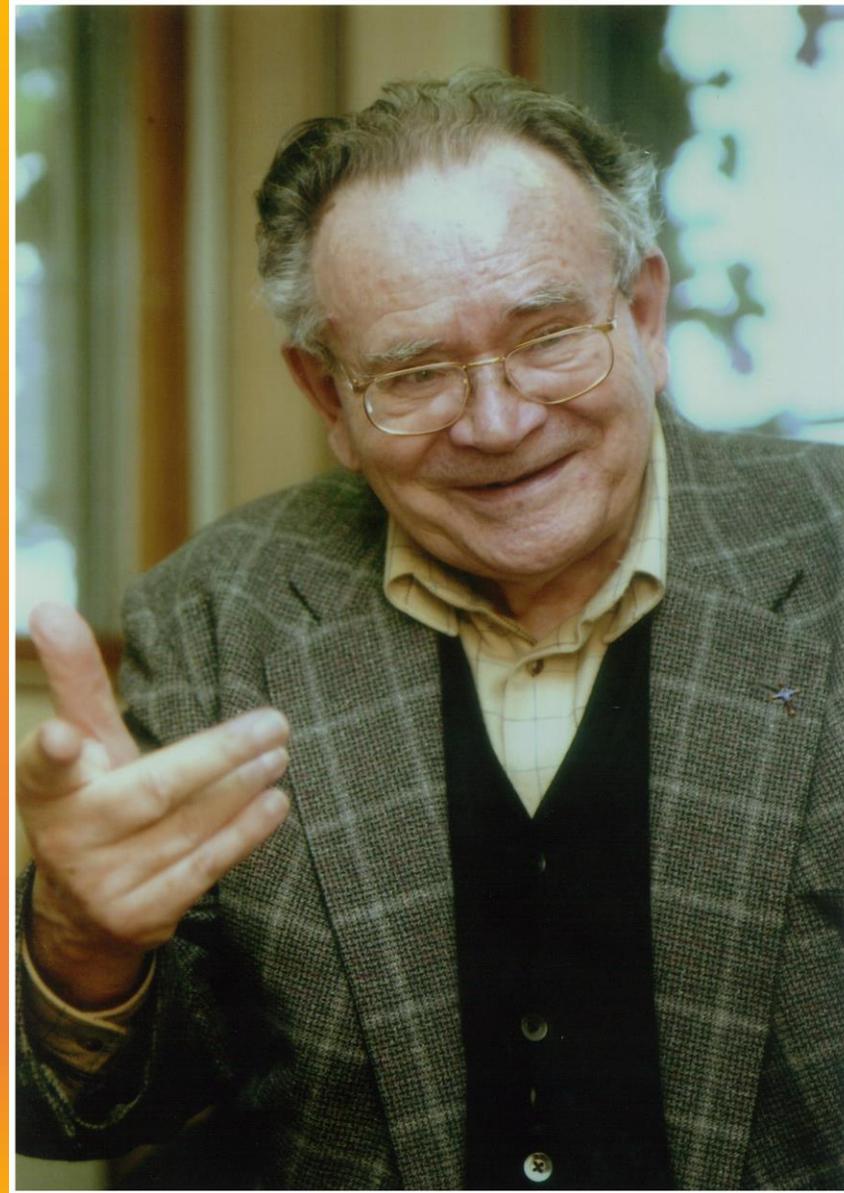
ホーム（旭ヶ岡の家）は最期まで過ごす我が家。

最期を迎えるまで、自宅と同じように好きなことをしながら好きに暮らしたい。

誰しもが望む人生最期の願いを叶える場所でありたい。

医師、看護師、ケアワーカーなどすべての職員が、家族とともに暖かく落ち着いた雰囲気の中で、本人の尊厳を守りながら、最期までケアを行う。

# 創立者 グロード神父



# グロード神父の言葉 ①

- 家族とともに、大事なお年寄りを看取り、死ぬことは人生の総仕上げで自然のことなんです。
- お年寄りが、なるべく落ち着いて納得して、丁寧にあの世に移ることを、平安な気持ちで待ち望むような状態に持っていくのがホームなんです。
- ホームは、入居者のための葬儀、並びにお骨を預かる納骨堂まで用意して、死ということは怖いものよりも当たり前前だという雰囲気を整えていかなければなりません。喪に服する人たちをお手伝いするまでなんです。
- 安心して同じ場所にずっといられる。  
この安心感こそお年寄りには最高の薬なんです。

## グロールド神父の言葉 ②

- お年寄りをなるべく移動させることなく、介護、医療、看護に携わる人たちが中心になって動くべきであること。
- 1人のお年寄りへのケアは、携わる人たちが一目でわかるように工夫すること。医療、趣味、宗教、薬、リハビリなど、すべて把握するように。
- 様々なアプローチの継続。例えばお年寄りの気の合うケアワーカーが続けて担当すること。
- お年寄りを包む世話は、みんな遊び心いっぱい。
- お年寄りのケアは最後まで責任を持つという約束を表面に出すこと。

以上の特徴を持つスタッフのチームワークが、お年寄りに間違いのないケアができる唯一の方法です。

# 縄文杉の暖炉



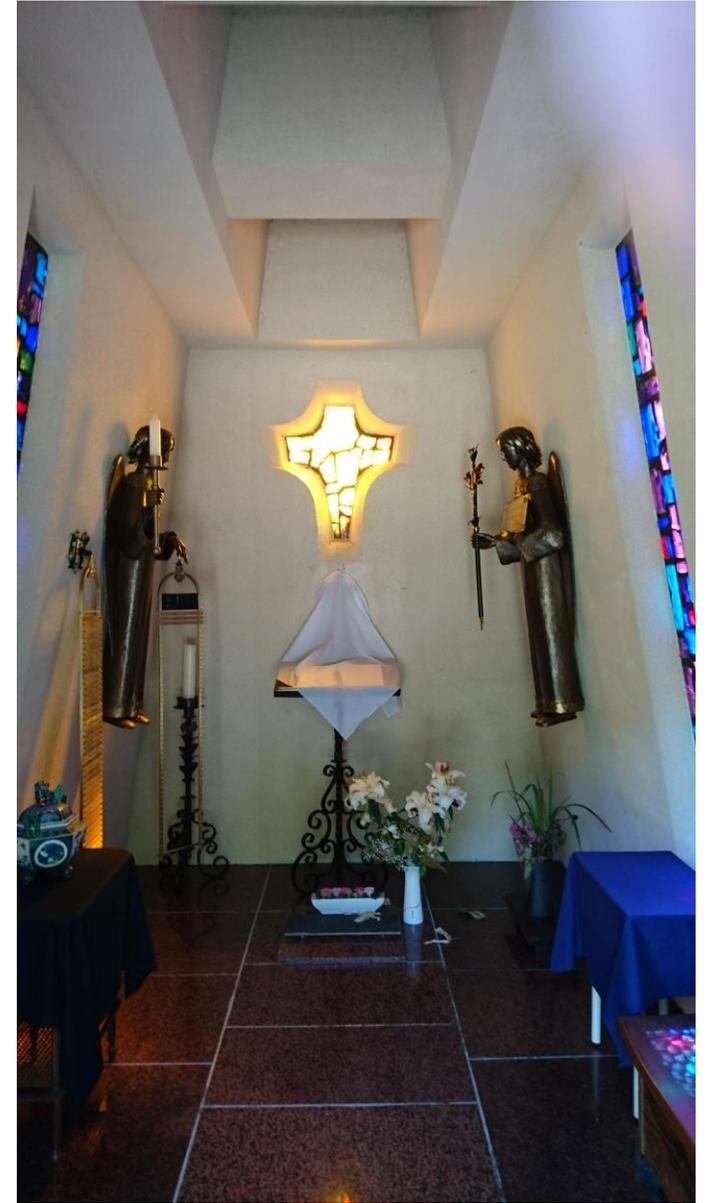
# 共同墓地



# 共同墓地



# 共同墓地 (内部)



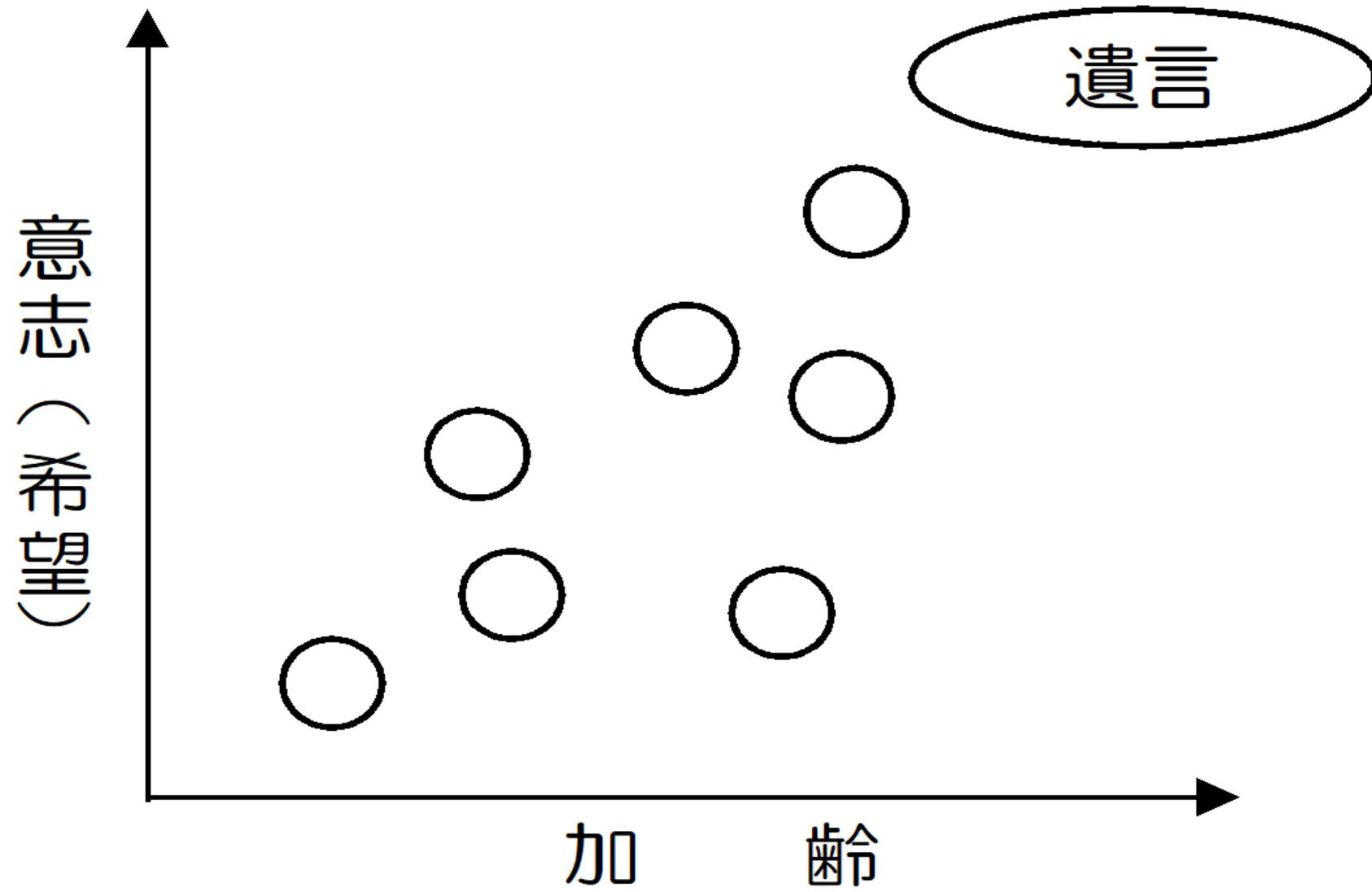
# 葬儀の様子 (合同慰霊祭)



# 出棺の様子



# 意思決定



# 課題：人生の最終段階の意思決定・・・

特養の対象者      基本的に、要介護3～5

- 本人：    意思決定できないことが多い
- 家族：    本人の気持ちがわからない

話し合ったことがない方達が多い

# 課題：人生の最終段階の意思決定・・・

- 本人： 決めることができない
- 家族： 決めなければならない  
これでよかったのだろうか・・・  
悩み、後悔も多い・・・

自己決定を支える支援

生涯かわることのない人間の尊厳

# 課題に対する支援

本人の意向が不明な場合、家族と何度も話し合う

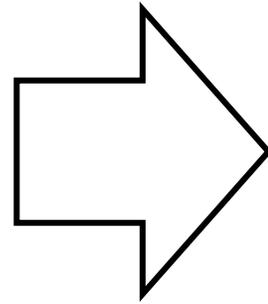
家族が決断するための予備知識の有無を確認

- 老衰
- 経管栄養
- 看取り
- 延命
- 過ごす場所の選択肢
- など

# 課題に対する支援

以下の項目について家族と**共通認識**を図る

- 本人の状態
- 施設でできること
- 看取り介護
- 経管栄養



家族の意向

自分の人生について

大切な人の人生について

話し合いましょう！

# 有料老人ホームレジダントの取り組み



# 有料老人ホーム・レジダントの取り組み

- 懇談会で雑談  
（不安なこと、これからしたいことなどについて）
- 終活セミナーへの参加  
（入居者と一緒に参加）
- 人生の最終段階についての個人面談